

大分県信用組合から県制度資金のお知らせ

がんばろう! おおいた資金繰り応援資金
～大分県新型コロナウイルス感染症対応資金～

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、
売上高が減少している県内中小企業・小規模事業者の資金繰りを応援する県制度資金です。

- ✓ 3年間無利子
- ✓ 無担保
- ✓ 5年間元本据置

3年間無利子は
「けんしん」だけ※

※大分県内に本店がある金融機関のうち3
年間無利子となる「リアルタイム方式」を採用
している金融機関は大分県信用組合だけ
となります。他の金融機関様では融資
を受けた事業者が年2回利子相当
額を補給する「キャッシュバック方
式」(実質無利子)を採用して
おります。

融資限度額 3,000万円

融 資 利 率 当初3年間 年率0.0%、4年目～年率1.3%

融 資 期 間 10年以内(据置期間 5年以内)

融資対象者 次の(1)、(2)のいずれかを満たす方
(1)セーフティネット保証4号 または 危機関連保証の認定を受けた方
(2)セーフティネット保証5号の認定を受けた方で、

かつ、新型コロナウイルス感染症に起因して、
最近1か月の売上高が前年同期比

①中小企業・小規模事業者 … 15%以上減少

②個人事業主(フリーランス含む) … 5%以上減少

※その他該当となるケースがありますので詳しくは下記までお問い合わせください

保 証 料 率 年0.0% または年0.425% ※市町村によるセーフティネット保証または危機関連保証の認定が必要

保 証 人 原則不要(但し、法人代表者を除く) 担 保 不要

詳しくは
店頭窓口またはフリーダイヤル 0120-017-319 9:00～17:00
(当組合休業日を除きます)

気持ちを前へ!

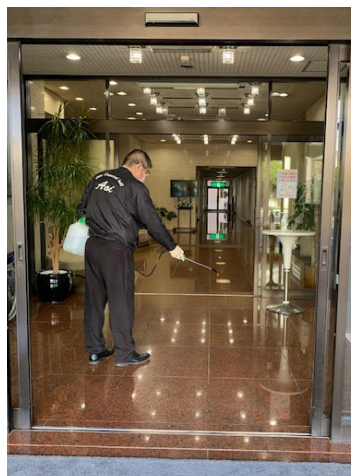
- 1 特集/TOP INTERVIEW
株式会社 葵
有限会社 エム・ナイン
石田土木 株式会社
- 4 キラリ、新風力 ふわり、爽風力
- 5 けんしん同友会企業紹介
- 7 けんしんTOPICS



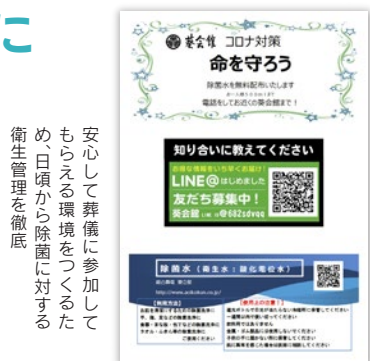
地縁づくりと地域貢献をより大切に

大分市(住吉地区・南大分地区・高城地区)の3カ所、中津市の1カ所に葬祭場「葵会館」を展開し、家族葬・一般葬から最大1000名を収容できる住吉斎場での社葬までを執り行っている。昭和60年秋に創業し、地域密着のスタイルで地域住民の方々との交流を通して絆を深め、信頼の輪を繋いできた。

「地縁づくりと地域貢献を大切に組み込んでいきたい」と語る、原田隆雄社長。「新型コロナウイルスの感染を危惧することによって、ご遺族が弔問客をご遠慮される葬儀の形式が増えてきています。このような現状をふまえ、3密(密閉・密集・密接)を回避する取り組み、常日頃から除菌に対する衛生管理の徹底を行い、お客さまに少しでも安全・安心のできる葬儀を提供したいと日々頑張っています」と、地縁づくりと地域貢献を軸に据え、ス



右/社員、嘱託、パート含め28名体制。お客さまのことを第一に思い、真摯に業務に取り組むことを大切にするスタッフ一同。左/地域の人々の日常に寄り添いたい、「赤ちゃんの駅」にも登録されている



新型コロナウイルス除菌対策を徹底



大分市の住吉斎場は1000人規模の葬儀に対応できる貴重な葬儀場



タッフと共に尽力している。創業以来、地域との交流活動を積極的に続けており、「より多くの人と絆を結んでいきたい」との思いから、近年は地域周辺の方々と朝市やグラウンドゴルフなどのイベントを通じてより深い交流を行っている。しかし、現在、新型コロナウイルスの影響で人が集まることができにくい環境のため、「地域の方々に何かできることはないだろうか?」と、除菌水を無料配布しようと発案、実行しており、内容など詳細はホームページやLINEなどのSNS

大分中央ブロック同友会

[葬祭業]

株式会社 葵

代表取締役 原田 隆雄 氏

DATA

〒大分市住吉町1-3-45

☎097-534-0012

☎24時間 困なし あり

http://aoikaikan.co.jp

「地縁づくりと地域貢献をより大切にしたい」と語る原田社長



トマト農家の女性たちによるサクセスストーリー

めぐみ会の「トマトケチャップ」と「焼肉のたれ」と言えば、一度は食べたことがあるという人も多いのではないだろうか? 雄大な祖母・傾山を望む荻町で、トマト農家の女性たちが手作りしているそれらは、今や大分県を代表するロングセラー商品である。

始まりは、昭和58年のこと。トマトの最盛期であるお盆頃、出荷できず大量に完熟してしまうトマトが出てしまい、何かに活用できないかと考えたのだという。トマトは店頭で並ぶ頃に赤くなることを想定して収穫されるが、今ほど冷蔵技術が発達していない時代。収穫できないトマトは完熟してしまい売り物にならなかったのだ。

県の専門家のアドバイスも受けながらケチャップを作ることになり、試作を繰り返すこと約10年間。代表の菅芙美子さんは、「めぐみ会は23名の女性たちで始まり、公民館にホーロー鍋を持ち寄って研究をしていました」とかつてを振り返る。追い求めたのは、「自分たちが美味しいと思う味」。平成

4年によく完成し、地域の祭りで販売することになった。ところが、地元の人々には見向きもされず、細々と年間約2000本を売る歳月が続いた。転機はそれから数年後、全国ネットのテレビ番組に出演したことをきっかけに注文が殺到し、年間4万本を生産する体制に入ったのだ。

「電話が混線してファックス注文に切り替えたり、婦人部の小さな会組織を法人化したり、できることを考え対応してきました。」

農業の傍ら製造をする日々。営業をする暇もなく、クチコミだけで美味しさは広まっていき、商談会に顔を出せ



タマネギやニンニクまですべて自家製。安心して食べられるものにこだわる



完熟トマトを使用。現在は給食センター跡地が工場になっている



各地で農家の女性たちが活躍しているが、長く続いているところは少ない



現在、商品は8種類。トマトケチャップと焼肉のたれは小瓶も登場している



「分からないことだらけだったけど、クリアしてきたと笑顔が素敵な菅さん

ば百貨店などのバイヤーの目に留まり、たちまち「めぐみ会のトマトケチャップ」は人気商品となった。

その後はインターネットでの販売もスタートし、現在も安定した売上を続けている。何より嬉しいのは、最初は興味を示さなかった地元の人々が贈答品に選んでくれていること。ケチャップと焼肉のたれだけだった商品は、ジュース、ジャム、ドレッシングやピューレなど8種類に増え、多くの人の食卓に美味しい笑顔を届けている。

トマトだけでなくニンニクやタマネギまですべて自家栽培しており、100%無添加のトマトケチャップはユーザーの声を汲み取った自慢の商品だ。当初から会の先頭に立つ菅さんは、「これからも新商品の開発に取り組んでいきたい」と意欲的。農家の女性たちのシンデレラストーリーは、まだまだ続く。

「豊後土工」のプライドにかけて 全国の現場で道を繋ぎ続ける

昭和28年に『石田工務店』として創業。大手ゼネコンの清水建設に勤めていた石田金之助氏が自身の「石田班」を独立させ、下請け会社として開業した。以来、今日までに全国163本のトンネル掘削工事を施工しており、総延長距離に換算するとその長さは約230kmにも及ぶという。

国や県などから発注を受けて、鉄道や道路をはじめ、ときには地下の石油基地など特殊なトンネルの施工に携わる。山陽新幹線や東北新幹線など、日本の背骨をつなぐ重要なミッションにも関わってきた。現在も現場は全国に点在し、進行中のものが8カ所。約200名の作業員を抱えている。

昔も今も、最も気にかけるのが作業中の「安全」の確保。現在、施工に関わっている現場でも、最先端の技術で安全性を構築している。それぞれの現場では地質も異なり、掘削条件もおおのずと違ってくる。



上／創業者の石田金之助氏(右から3人目)と、2代目の勝美氏(右端)
下／社内にはトンネルが貫通した際の「貫通石」が並び、これは東北新幹線の八甲田トンネルの貫通石
右／創業時の様子を伝える写真の前で、現社長の石田誠一さん(右)と、息子で副社長の駿介さん



現在建設中のトンネルの現場。人が重機と接触する危険区域に入るとセンサーが知らせる



事前調査で多くの課題が浮かびあがることもある。そのような危険が付きまとう現場にAIやセンサーを導入し、人と重機の動線を管理。危険が及ぶと警告音を発し重機を自動でストップさせ、人と重機、現場の安全を確保している。

「建設現場は危険という概念を払拭し、若手の採用に繋げるためにも安全性の確保は最大の課題」と語るのは、3代目の石田誠一社長。日本トンネル専門工事業協会の副会長としても活躍し

ている。近年、災害が多発していることから土木の重要性が再発掘されており、「地域の方々に喜ばれることが大きなやりがい」とも言う。東日本大震災の被災地で復旧工事に携わったという4代目の駿介副社長は、まさにその現場で「土木の重要性を痛感した」と話す。「戦後から続く歴史ある会社を私の代で途切れさせたくないという思いからこの世界に飛び込みましたが、やればやるほど、やりがいを感じる。古い知識を土台に、新しい技術も加えながら、100年企業を目指したい」と、代替わりをまもなく控えて、抱負を語ってくれた。

かつてトンネルは手彫りで難しい技術を要した。大分県はトンネルの数が日本一多い。それを造った人々を「豊後土工」と言い、彼らが全国に掘削技術を伝えたそう。そのプライドにかけて、これからも道を拓き続ける。

佐伯地区同友会

[土木工事業]

石田土木 株式会社
取締役副社長 石田 駿介氏

DATA

所 佐伯市東町11-19
☎ 0972-23-5811
営業 8:00～17:00
休 土・日曜、祝日 □あり
http://www.ishidadoboku.co.jp

福岡大学、九州大学大学院時代はコンクリートの研究に没頭したという石田駿介さん

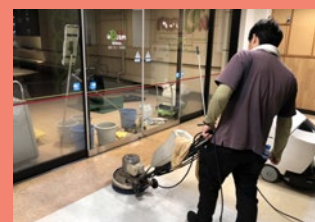
女性目線で メンテナンス業界に新風を

駅や空港、商業施設などを利用して、清掃作業中の風景を見かけたことがあるだろう。そういったメンテナンス業務を請け負っているのが『クリエイト明日香』。もともと別の会社の傘下にあったが分離独立して、昨年、近藤希望さんが社長となった。

以前は人材派遣会社に勤めていたという近藤さん。メンテナンス業界からの派遣要請にも応えていた彼女は、「人材を紹介しても、契約期間が終われば次の会社に斡旋することになります。その都度いちからやり直しになるので、せっきくのスキルがもっていない」と感じていた。社長の席を打診されたときは、そんな思いを解消できるチャンスだと捉え迷わず引き受けた。



株式会社 クリエイト明日香
代表取締役 近藤 希望さん



近藤さんは、メンテナンス業は、スキルを身につければ独り立ちできる仕事だと語る

DATA

[メンテナンス業]

株式会社 クリエイト明日香

所 大分市向原東2-2-12 Q03
☎ 097-511-0616
営業 8:00～18:00
休 なし □あり

キラリ 新風力 New Wind & Fresh Power ふわり 爽風力

土木・建築から農業まで手がけ 地元の産業を盛り立てる

「自分の腕を試したい」と平成6年に独立開業した北崎信也さん。護岸、道路、砂防などの公共工事を主に、住宅の新築・リフォームまで幅広く手がけている。建築は、大手メーカーと差別化した自由設計の注文住宅を得意とし、施主の細かなオーダーに応えられるのが強みだ。

職人をしっかりと育ててきたため、「技術に不安はない」と自負する北崎さん。ベテランが揃い、今後は若手も育てたいと人材を募集中だ。週休2日の導入など、働き方改革が進む土木・建築業界では近年、現場で活躍する女性も増えた。「当社にはまだいませんが、重機のオペレーションなどは女性にも向いている。ぜひここで経験を積

んでほしい」と、女性職人の採用にも意欲を覗かせる。

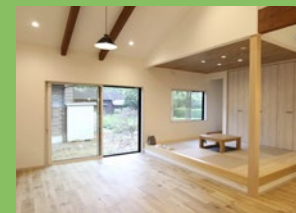
建築業界一筋かと思いきや、趣味が高じて始めたという養鶏も順調だ。もともと農業にも興味があり、自然養鶏について書かれた本を読んで感動。自身で調合し、発酵させた無添加の餌を与えながら、ストレスフリーな平飼いの環境で、1000羽以上の鶏を育てている。『菜肴自然鶏園』の卵は、レモン色をした黄身が特徴。トキハ本店の地下2階や、JA豊後高田グリーンセンターなどで購入できるが、いちど食べた人からのリピート注文がほとんどだという。一方、昭和の町で居酒屋『菜肴』も営んでおり、自慢の卵を使った卵焼きが名物。モツ鍋も人気だ。

これからも土木、建築、農業、そして食の世界で豊後高田の産業を賑わす。

業務は、ビルのメンテナンスや病院、スーパーの清掃がメイン。そのほか賃貸住宅の入・退居時のクリーニングから建設現場の掃除まで多岐にわたり、約40名のスタッフが活躍している。心がけているのは、挨拶。「病院には患者さんが、スーパーには買い物客がいるように、当社の顧客にはそのまたお客さまがいます。すべての人を自分のお客さまだと思って、気持ちよく挨拶をしたいんです」。その成果か、就業中に「うちも頼めないか」と依頼が舞い込むこともあるとか。この夏は、コロナ禍の影響でエアコン清掃の受注が増加。個人宅にも出向くため、「女性のお客さまにも安心していただけるよう女性スタッフを大募集しています」と語る近藤さん。そんな女性らしい視点が光る、注目の社長だ。



有限会社 信成建設
代表取締役 北崎 信也さん



建築は土地探しからお手伝い。間取りやデザインにこだわりたい施主に喜ばれている

DATA

[総合建設業]

有限会社 信成建設

所 豊後高田市玉津1352-2
☎ 0978-24-3747
営業 8:00～17:00
休 土・日曜 □あり
https://shinseicorporation.com

福祉事業

社会福祉法人 大分県福祉会

時代と社会のニーズに応えながら子どもたちに福祉を提供



本部に併設された児童家庭支援センター「ゆずりは」では、24時間365日、子どもに関するあらゆる悩みに応える

戦後、戦災孤児らを保護するため、大分県が担っていた事業。のちに社会福祉協議会が設立され、実務を引き継いだのが経済界有志で立ち上げた『大分県福祉会』である。児童養護施設や障害児入所施設を運営しながら、脈々と子どもたちに福祉を提供し続けてきた。しかし、時代の変遷とともに浮き彫りになる社会課題はさまざま。女性の社会進出にともなう待機児童問題に対応するため、近年は保育園事業を積極的に拡大している。現在は8つの施設を運営している。有松一郎理事長は、それらを支えるスタッフについて「理想と豊かな発想を持つ素晴らしい職員たちです」と誇らしげ。無限の可能性を秘めた子どもたちに関われることを何よりのやりがい、今後も社会のニーズに応え続ける。



所 大分市顕徳町1-13-17
☎ 097-532-3472
営 9:00～17:00
休 土・日曜、祝日
https://oitakenfukushikai.com/



酒類・ギフト小売業

安田酒店

大分の焼酎・清酒をずらりと揃える昭和の町の酒専門店



店内の半分は酒店、もう半分は釣具店という楽しい店。県産のお酒に関しては百貨店並みの品揃え

レトロな街並みが残る昭和の町で、明治44年から続く酒屋。バスターミナルからまっすぐ伸びた駅前通り商店街に軒を連ね、かつて鉄道の停車駅があった頃は、電車を待つ客の角打ち場としても賑わっていたという。まちづくりで有名になってからは、観光客がメイン。看板商品はその名も「昭和の町」と命名したにがり酒で、ふるさと納税の返礼品としても人気だ。店には三和酒類の「西の星」でも原料となる麦の産地を限定した商品や、県内各地の酒蔵の焼酎、清酒を多数品揃え。国内外からの観光客に「大分」を発信しているため、お歳暮・お中元などギフトの購入にも最適な店だ。ちなみに、店の半分を釣り具が席巻しているのは、初代が始めた『安田釣具店』の名残。昭和の町だけに昔懐かしい商品も陳列されているので、釣りファンは必見！



所 豊後高田市新町992-10
☎ 0978-22-2327
営 8:30～19:30
休 火曜
P あり



漁産物製造

九州アプトン株式会社

ニッチな世界に特化した物流に付加価値をつける



第二倉庫に積まれた魚函の山。専門的に特化した世界で大きな信頼を得ている

鮮魚の物流に欠かせない魚函の卸売販売を専門とする。全国に名を馳せる佐賀関の海の幸や、子どもより大きなマグロなど、どんなサイズにも対応。また、水耕栽培のネギなど農産物の出荷にも用いられている。「鮮度を保つ」という使命をまっとうするため、平成3年からは保冷剤の製造もスタート。自社ブランドの「APアイス」は、「破れて中身が口に入るなど、万が一事故があったときに問い合わせできるように」と、自社名まで印刷しているのが安心の証だ。パッケージに企業やブランドのロゴを配したオリジナル商品の依頼にも応えられる。さらに、保冷剤のパッケージや漁函に広告やQRコードを印刷するなど、PRの手法までアドバイスできるのが強み。輸送用の函に何か付加価値をつけたい方は、ぜひご相談を。



所 大分市迫363-5
☎ 097-522-1688
営 9:00～17:30
休 土・日曜、祝日 P あり
https://peraichi.com/landing_pages/view/k-aption/



食品加工・小売業

久住高原菓房いずみや

アイスクリームの副産物オリジナルのスキル「Kuju's」で話題



久住山の南登山口にある、小さなロッジのような店構え。久住高原の恵みをデザートにして届けている

いま話題の「スキル」をご存知だろうか？それはアイスランドで生まれた乳製品のこと。低カロリーで高カルシウムなうえ、たんぱく質がヨーグルトの2～3倍含まれていると言われていた。これが食べられる店として注目されているのが、黒胡麻ソフトで有名な『いずみや』。伝統的製法に倣い、独自に開発した「Kuju's (クジューズ)」という名前で販売中だ。実はこれ、店主の佐藤達雄さんが、商品のアイスをつくる際に残る低脂肪乳を「何かに活用できないか」と試行錯誤した賜物。7年かけて完成し、縁あってアイスランド大使館の料理長からもお墨付きをもらったという。店頭ではブルーベリー、ストロベリー、カボスの3種のフレーバーをデザート感覚でテイクアウト可能。オンラインショップではプレーン味を販売中だ。



所 竹田市久住町久住4048-15
☎ 0974-76-0023
営 10:00～17:00
休 不定 P あり
https://www.kujukogenkabo.com



家具・建具製造販売

野田家具店

施主の思いを叶え職人技を生かした建具を造る



この道約30年の野田さん。培った技術をベースに、アイデアを凝らして注文に応え続ける

香々地支店の隣に、昭和の初めから続いていた家具屋がある。かつては福岡・大川産の家具を販売しており、オーダー家具も受注していたが、現在は建具の製造が専門。3代目を継ぐ野田勝也さんは、伝統的な技術を継承する貴重な職人だ。インターネットの普及とともに、依頼には施主の好みやこだわりが強く反映されるようになった昨今。可能な限りそのニーズに応えながら、プロの視点からアドバイスすることも忘れないという。心がけているのは、施主の気持ちに寄り添い、最終的に「任せて良かった」と喜ばれる仕事をする。建売住宅が流行する中、「大工に依頼すれば思い通りの家が建つ」と注文住宅の魅力も語ってくれた。川を隔てた旧店舗では、引退した先代が手がけたみごとな流木のオブジェを展示中。こちらも覗いてみては？



所 豊後高田市香々地3580
☎ 0978-54-2434
営 8:00～17:00
休 日曜
P あり



酒類販売業

株式会社保田屋

5つの時代を渡ってきた城下町の酒屋



和洋を問わずさまざまな酒類の品揃え。地元佐伯の銘酒も取り扱っている

江戸時代、佐伯藩の城下町として賑わった船頭町に軒を連ねる。開業は1878年。地域に愛される酒の専門店であり、海軍御用商人として栄えた時代もあるなど長い歴史を誇る。ここ約20年ほどはディスカウントショップに業態転換して移転先で営業していたものの、創業140周年を機に発祥の地である船頭町へ戻ってきた。社訓は「先人に学び時流を読み未来を拓く」。5代目を継ぐ黒木和彦社長は、「商品の先にある（消費者の）目的を意識しながら、保田屋にしかない“モノ”ではなく、保田屋にしかできない“コト”を売っていきたい」と今後のビジョンを語ってくれた。既存客と新たな酒の出会いを提供したいと、定期的に「角打ち」のイベントも開催しており、毎回大盛況。参加したい方は、SNSで情報をチェックしてみては？



所 佐伯市船頭町8-21
☎ 0972-23-2711
営 月～土曜9:00～19:00、日曜・祝日10:00～18:00
休 なし P あり

